

学び舎ひまわり 第3講

日野第一ふれあいフェスタ 視察

開催報告

DATA

日時 平成27年 10月 4日(日) 11時~15時

会場 横浜市立吉原小学校

受講生 27名(地域 24名 区役所 3名) 欠席者 10名(地域 5名 区役所 5名)

1 フェスタオープニング見学



すでにたくさんの人であふれる会場。
小後摩会長のあいさつでスタート!



オープニングを見学。1期生の佐藤会長が
フェスタの概要を説明してくれます。

2 高森名誉校長、小後摩日野第一連合会長 講話(概要)

高森名誉校長



平成19年からスタートしたフェスタ、それまでの27年間チャリティーバザーを開催していたが、時代の流れと共に形を変え、団体や地元企業の協力を得て今の形での開催となりました。

フェスタは連合、地区社協、その他委嘱団体、行政などが協力し合って開催していますが、災害時の初期対応・安否の確認に力を発揮するのは、連合でも行政でもなく、ネットワークのある地縁組織。フェスタを通じ、顔の見える関係を作り行政と連携していけば災害時にも自治会町内会のみなさんがいい動きが出来るはずです。

皆さんには自治会町内会が行政と協働の地域づくりを進めるための原動力になっていただきたい。みんなが手を携え、次世代の子どもたちのための良い環境を整え、地域を自分たちで守っていく、そんな気持ちでこれからも活動していただきたいと思います。

小後摩連合会長



学び舎ひまわりの1期生として受講後、連合会長に指名されました。昨年度のフェスタは土砂降りの雨の中2,700名が来場。体育館にメイン会場を移しての開催はかえって集中力が高まり大変盛り上がりました。今日の来場者数は3,500名くらいの見込みです。

ふれあいフェスタは10名の単会の会長が中心となり運営。委嘱委員とも連携し、それぞれに役割を担ってもらっています。ふれあいフェスタを通してみんなで顔の見える関係をつくり、それを原点にして防災にも取り組んでいます。

防災は重要なテーマ。日野第一では拠点訓練を実践に即して実施しています。仮設トイレ・支援物資・本部・更衣室・通信・避難場所などを図面化するなど、発災時に私たちがこの地域にいないことも想定し、記録で残していくことに力を入れています。

3 ふれあいフェスタ ブース見学

有田会長、佐藤会長の案内のもとふれあいフェスタの各ブースを見学。



4 意見交換・まとめ



【主な意見】

- 組織内のまとまり、連合と地区社協とのつながりが素晴らしい。運営に若い人が多い。
- 3R 夢など行政ブースをわが地域でも展開したいので、担当の方と名刺交換をした。
- やってみて続けていくことが大切。人が変わった時に継承していくことが大事。
- 良い雰囲気になる雰囲気作りができるリーダーが必要

学びのまとめ 集計結果

回収数：26件 回収率：96.3%（早退者1名は未提出）

満足	やや満足	やや不満	不満	未回答
20	4	1	0	1
76.9%	15.4%	3.8%	0.0%	7.7%

受講生の意見

- 連合、社協、各町内会の努力、協働による大きな催し物と感じた。参考にしたいところがたくさんあった。
- 高森名誉校長、小後摩連合会長の講義が大変参考になった。防災についての熱い話が良かった。
- イベントだけでなく、準備や進め方などの苦労話が聞けて参考になった。また様々な団体がうまく調和した会場づくりへの配慮も良く分かった。
- 自分の連合行事では裏方をしている為、表の祭りを楽しんでいる地域の方を感じられ嬉しく思った。
- 高森名誉校長の言葉で『始めることから続けることが重要』という言葉の重みを感じた。またそれを次の人に伝えていくのも大切なことと思った。
- 自治会町内会のお店はブース見学の時はほとんど終了していたので、お話を聞くことが出来ず残念。講話と時間を入れ替えていただいたら良かったのでは。
- 各町内会の中だけでもそれぞれ行事があって、さらに行事を増やすのは大変だと思う。